

Section

01

EOS M6 Mark IIの各部名称を知ろう

Keyword ▶▶▶ 各部名称、ボタン、ダイヤル

カメラを思い通りに操作するためには、**カメラ各部の名称を知っておくことが重要だ**。使用頻度が高い電子ダイヤル関連の名称は、特に覚えておきたい。名称を確認したら、撮影しながら操作を行い、理解を深めよう。

1 M6 Mark II正面部の名称



- 1 グリップ
- 2 メイン電子ダイヤル
- 3 マルチファンクションボタン
- 4 シャッターボタン

- 5 AF補助光/赤目緩和/セルフタイマー/リモコンランプ
- 6 レンズロック解除ボタン

2 M6 Mark II背面部・上面部の名称



- 1 画面モニター/タッチパネル
- 2 フォーカスモードスイッチ
- 3 AFスタートボタン
- 4 [INFO]ボタン
- 5 AEロック/FEロックボタン
- 6 AFフレームボタン
- 7 動画撮影ボタン
- 8 コントローラーホイール

- 9 [MENU]ボタン
- 10 再生ボタン
- 11 ドライブモード/◀ボタン
- 12 露出補正/▲ボタン
- 13 [Q SET]ボタン
- 14 ストロボ/▶ボタン
- 15 消去/▼ボタン



- 1 内臓ストロボ
- 2 アクセサリーシュー
- 3 モードダイヤル

- 4 サブ電子ダイヤル
- 5 ダイヤルファンクションボタン
- 6 電源スイッチ

3 M6 Mark II側面部の名称



- 1 ストラップ取り付け部
- 2 デジタル端子
- 3 HDMI出力端子
- 4 ストロボアップレバー
- 5 外部マイク入力端子
- 6 リモコン端子

07 ピントを自在に操ろう

Keyword ▶▶▶ タッチ操作、AF スタートボタン

撮りたい構図が決まったら、画面モニターに映る被写体にタッチすると、カメラがその被写体を認識し、ピントを合わせることができる。ボタン操作をしなくても、撮りたい被写体をかたんに指定できるのでおすすめだ。

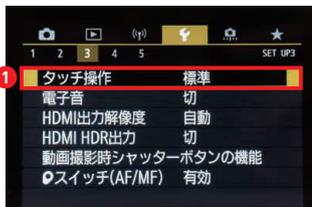
1 タッチ操作を設定してピントを合わせる

AF方式に関わらず撮りたい被写体をタッチすると、カメラがその被写体を自動的に認識してピント合わせをする。



AF方式を顔+追尾優先AFに設定しているとき、被写体をタッチすると、AFフレームがその被写体を認識し続ける。もしも被写体が画角から外れてしまっても、また画角内に戻せば認識し直してくれる。

タッチ操作の設定方法



[MENU] ボタンを押し、[F] 3の[タッチ操作]を選択する①。



▲▼で[標準]を選択し②、[Q SET]ボタンで決定する。

2 AF スタートボタンでピントを合わせる

通常カメラは、シャッターボタンを半押ししてピントを合わせる。M6 Mark IIでは、AFスタートボタンが搭載され、親指を使ってピントを合わせることができるようになった。つまり、「ピント合わせは親指、シャッターは人差し指」と役割分担ができるようになり、難しい力加減のシャッター半押しをする必要がなくなったのだ。



左写真のように親指をAFスタートボタン、人差し指をシャッターボタンに置いて構える。ピントを合わせてから自由に構図を変えられない人には、AFスタートボタンを使うのがおすすめだ。



ファインダーの中央点で被写体を捉え、AFスタートボタンでピントを合わせる①。



AFスタートボタンから指を離すと、ピントが固定される。ここで構図を変えても、ピント位置はズレることなく好きな構図の撮影をすることができる。

▶▶▶ まとめ

- 画面のタッチ操作でピントを合わせることができる
- ピント合わせはAFスタートボタンからできる

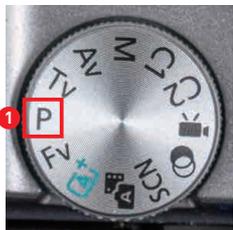
Section
04プログラム AE で
撮影しよう

Keyword ▶▶▶ シャッター速度、絞り、プログラムシフト

被写体の明るさに合わせて、**シャッター速度と絞り値をカメラが自動で設定**してくれるのが、プログラムAE(P)だ。撮影者は、必要に応じて露出やISO感度(P.72)、ホワイトバランス(P.98)などを変更することができる。

1 絞りとシャッター速度をカメラに任せて撮影

プログラムAEでは、**絞りとシャッター速度をカメラが自動的に決めてくれる**。カメラが自動で露出を設定するので、撮影者は適正露出で写真を撮影できる。カメラが選んだ絞り値とシャッター速度は、画面モニターに表示される。



モードダイヤルを[P]に合わせる①。モニター画面の左上にプログラムAEのPが表示される②。



シャッターボタンを半押しすると、カメラが状況に合わせた絞り値③とシャッター速度④を選択してくれる。シャッターボタンを全押しすると、シャッターが切れる。

2 プログラムシフトを利用する

プログラムAEでカメラが選んだ絞り値とシャッター速度の数値を、**同じ露出を維持したまま変更**することを、プログラムシフトという。シャッター速度と絞り値の組み合わせを変えて撮影すると、同じ被写体でも写真の印象が変わる(P.59)。



AEロックボタンを押す①。メイン電子ダイヤル②を回すと、メーターが表示されるので③、メイン電子ダイヤルを左右に回して絞り値とシャッター速度の組み合わせを選ぶ。④のほうに回すと絞り値が大きくなり、⑤のほうに回すと絞り値が小さくなる。



絞り値5.6、シャッター速度1/125秒で撮影した。被写界深度が浅く、背景がボケて写った。



絞り値29、シャッター速度1/5秒で撮影した。左の作例と露出は同じだが、被写界深度が深く、背景までくっきり写った。

▶▶▶ まとめ

- プログラム AE は露出をカメラが自動で設定してくれる
- プログラムシフトは露出を一定に保ちながら、シャッター速度と絞り値の組み合わせを変更することができる

Section
04

クリエイティブフィルター を使おう

Keyword ▶▶▶ クリエイティブフィルター

クリエイティブフィルターを使うと、粗く力強いモノクロやソフトフォーカス、水彩風など、特殊な効果を楽しむことができる。

1 8種類のフィルターを楽しもう

M6 Mark II搭載のクリエイティブフィルターには、「ラフモノクロ」「ソフトフォーカス」「魚眼風」「水彩風」「トイカメラ風」「ジオラマ風」の6種類のフィルターと、4種類の「HDR(ハイダイナミックレンジ)」という自動合成機能の計10種類のモードが用意されている。モードを選んで、効果を見ながら撮影してみよう。

2 クリエイティブフィルターを設定する



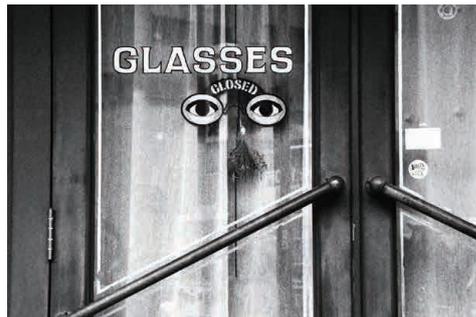
モードダイヤルを[]に設定し、[Q SET]ボタンを押す①。



画面左に表示されるクリエイティブフィルターの一覧から▲▼で選択し②、[Q SET]ボタンで決定する。

3 クリエイティブフィルターの効果を知る

■ ラフモノクロ



モノクロの写真撮影ができる。コントラストが強く、粒状感ある仕上がりになる。効果の調整でコントラストを[弱め/標準/強め]に設定できる。

■ ソフトフォーカス



ソフトフィルターを使用したような、優しい雰囲気の写真撮影できる。効果の調整でぼかし具合を[弱め/標準/強め]に設定できる。

■ 魚眼風



魚眼レンズで撮影したような、ダイナミックな歪曲を演出できる。効果の調整で効果の度合いを[弱め/標準/強め]に設定できる。

Keyword ▶▶▶ マクロレンズ、スーパーマクロモード、レンズ前 LED

マクロレンズとは、近接撮影を得意とした特殊レンズだ。小さな被写体にもレンズ前まで寄れるため、細部を大きく切り取ったり、大きなボケ表現が可能になる。ピント合わせはMFに設定し、カメラ位置を微調整しながら撮るとよい。また通常の28mmレンズとしても使えて、花や小物・料理などさまざまなシーンで活用できる。



▶▶▶ 製品データ

EF-M28mm F3.5 マクロ IS STM

フルサイズ換算で、45mm相当の焦点距離を持ち、レンズ前面にLEDライトを搭載している。等倍撮影のほか、レンズ面から13mmまで近づき1.2倍率で撮影できる「スーパーマクロモード」への切り替えも可能だ。また、細かい手ブレ補正機能を搭載している。

LED ライト点灯ボタン

ボタンを短く押すたびに、両側点灯のON/OFFと、強弱を切り替えられる。ボタンを長く押しすと片側点灯する

1 被写体に寄って大きく切り取る

花卉にラメが施されたバラを近接撮影した。離れて撮ると普通のレンズと変わらない印象になるが、しっかりと寄ることで、大きくやわらかい、マクロレンズならではの描写ができる。LEDライト点灯ボタンを押すと使用できる、レンズ前LEDが活躍した。

**カメラ設定**

撮影モード Av (絞り優先)
絞り 3.5
シャッター速度 1/160
露出補正 -1
ISO感度 3200
WB 太陽光
使用レンズ EF-M28mm
F3.5 マクロ IS STM
焦点距離 28mm

2 スーパーマクロモードで撮影する

レンズ横のスイッチを「SUPER MACRO」に切り替えると、レンズ前から約13mmまで寄ったクローズアップ撮影ができる。ここではピントを合わせた位置にアリが来た瞬間を狙う、置きピンという方法で撮影した。

**カメラ設定**

撮影モード Av (絞り優先)
絞り 4.0
シャッター速度 1/160
露出補正 +2/3
ISO感度 1000
WB 太陽光
使用レンズ EF-M28mm F3.5
マクロ IS STM
焦点距離 28mm

3 レンズ前 LED でライティングする

レンズ前LEDを使うと、接写時の影を照らすことはもちろん、被写体の質感やコントラストを出すこともできる。ライトはLEDライト点灯ボタンの操作で左右両側・片側・それぞれの強弱と6パターンの調整ができる。

カメラ設定

撮影モード Av (絞り優先) 絞り 4
シャッター速度 1/160 露出補正 ±0
ISO感度 640 WB オート
使用レンズ EF-M28mm F3.5 マクロ IS STM
焦点距離 28mm

▶▶▶ まとめ

- マクロレンズは小さなものを大きく写せる特殊レンズの一つ
- 状況や被写体によって、マニュアルでピント合わせをしよう
- LEDの当て方やモードを切り替えて好みの明るさや質感を見つけよう

Section
05動物を屋内で
かわいく撮影しよう

Keyword ▶▶ キャッチライト、タッチシャッター、アングル

家族の一員であるペットの写真も、素敵に撮りたいものだ。猫の場合は明るさが抑えられた室内のほうが瞳孔が開き、クリクリと可愛らしい目になる。単焦点レンズならば、暗所でもより明るく、より速いシャッター速度で撮影できる。さらに室内の生活感も目立たせず、程よくぼかせるメリットがある。動きが速い場合は、標準・高倍率ズームレンズで狙ってみよう。一緒に遊ぶように撮ってあげると、カメラ慣れしやすいはずだ。



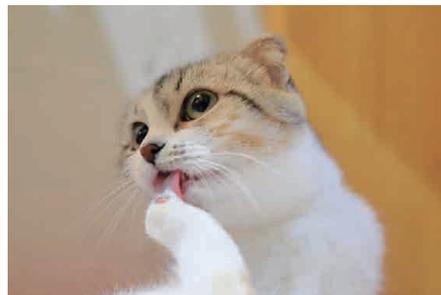
キャッチライトを入れて撮る

キャッチライトとは、瞳の中に映り込む光のこと。人物ポートレートと同様、瞳が輝くことで、よりいきいきとした表情に写る。照明や明るい窓のほうを見上げた瞬間を狙ってみよう。

カメラ設定	撮影モード	Av (絞り優先)	絞り	2.0	シャッター速度	1/160
	露出補正	±0	ISO感度	1000	WB	オート
	使用レンズ	EF-M22mm F2 STM		焦点距離	22mm	

1 タッチシャッターですばやく撮る

通常はAFフレームでピント位置を決め、シャッターボタンを半押ししてから撮影する。しかし一瞬の仕草をできるだけすばやく捉えたいときは、モニターに触れた瞬間に撮影できるタッチシャッター (P.21) が便利だ。



カメラ設定

撮影モード Av (絞り優先)
絞り 1.8
シャッター速度 1/160
露出補正 ±0
ISO感度 2500
WB オート
使用レンズ EF-M32mm
F1.4 STM
焦点距離 32mm

2 カメラ位置やアングルを意識する

下の写真では、カメラをテーブルに置いて撮影したことで、下部のやわらかい映り込みを表現できた。チルト式モニターを活用し、普段見ているのとは違う角度からも魅力的な表情を探してみよう。



カメラ設定

撮影モード Av (絞り優先)
絞り 1.8
シャッター速度 1/160
露出補正 ±0
ISO感度 1250
WB オート
使用レンズ EF-M32mm
F1.4 STM
焦点距離 32mm

▶▶ まとめ

- キャッチライトを入れて、よりいきいきとした表情を撮る
- タッチシャッターで一瞬の仕草を捉える

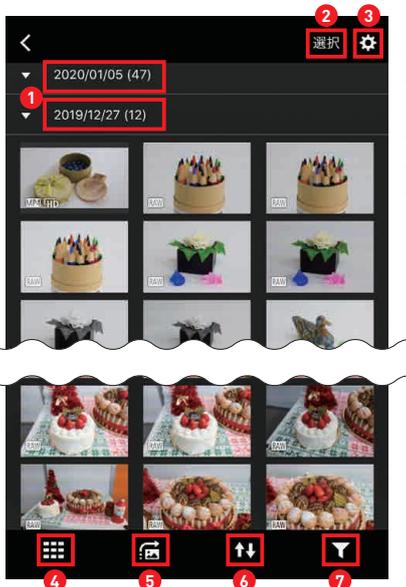
Section 05 スマートフォンで撮影&画像を転送しよう

Keyword ▶▶▶ リモート撮影、位置情報、自動転送

スマートフォンアプリ「Canon Camera Connect」をカメラと接続すると、カメラ内の画像をスマートフォンで閲覧したり、画像の送信や、リモート撮影をしたりすることができる。カメラから撮影した写真をすぐにスマートフォンに送り、SNSにアップすることができるようになったのだ。

1 Canon Camera Connect の画面表示

「Canon Camera Connect」を起動しカメラと接続する(P.168参照)。トップ画面から[カメラ内の画像一覧]をタップすると、下の画面が表示される。画面の表示内容を理解して、スムーズに操作しよう。



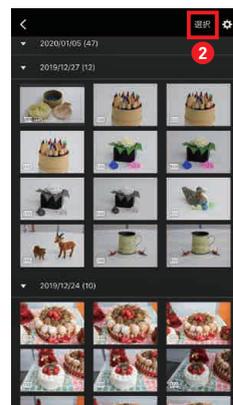
- 1 撮影日
- 2 画像の選択
- 3 位置情報やサイズなどの変更
- 4 画像表示サイズの変更
- 5 指定したフォルダーに移動
- 6 画像の並び替え
- 7 画像の絞り込み検索

2 スマートフォンに写真を転送する

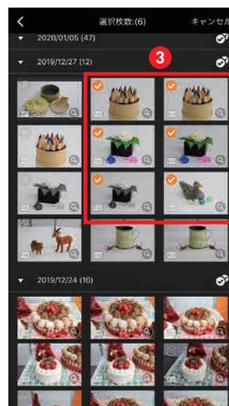
「Canon Camera Connect」を使うと、M6 Mark IIのSDカードに記録されている写真をスマートフォンから閲覧し、スマートフォンに転送することができる。



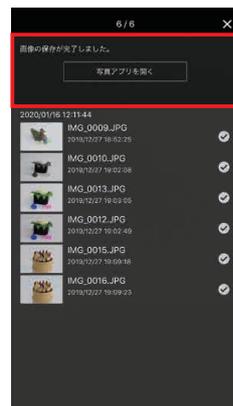
スマートフォンとカメラを接続後、「Canon Camera Connect」のトップ画面から[カメラ内の画像一覧]をタップする①。



サムネイル画面の右上にある[選択]をタップする②。



スマートフォンに転送したい画像を選択し③、「取り込み」をタップする。



スマートフォンに画像が転送される④。

7

カメラ内画像編集とスマホ連携を活用しよう